

物流システムの導入の限界

- 物流システムは払い出し単位であり、あくまで使用部署ごとのデータに留まる。
- 病棟ごとのデータは取れても一病棟一診療科でもない限り正確なデータは取れない
- ましてや、手術室、血管造影室など複数診療科が使用する部署のデータは取れない

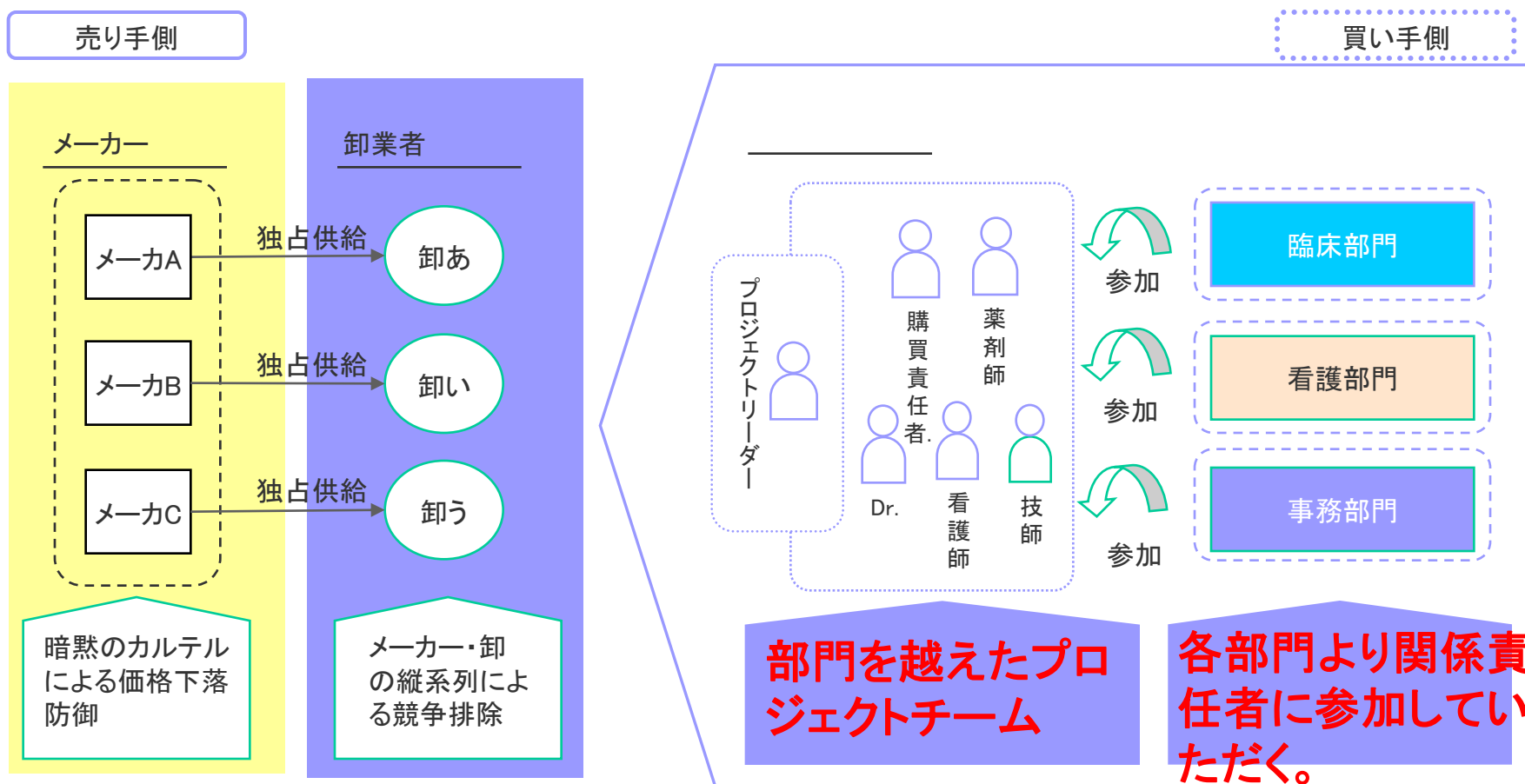


データ解析と施策を策定、実行する組織が不可欠

物流システムなしでは何も出来ない
物流システムだけでは何も出来ない

医療材料業界の構造的な問題点 -解決の方向性-

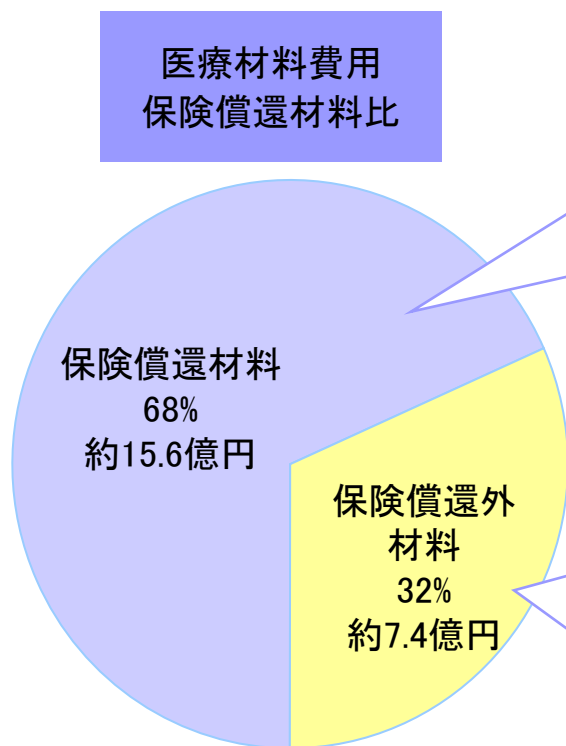
解決の方向性イメージは、院内各部門を越えたプロジェクトチームを結成し病院が一丸となり、院内外に病院姿勢の明確化をおこない、メーカーとその販売エージェントである卸の系列化・談合といった業界の古い慣習を打ち破る事により可能となる。



診療材料費の構成と特性

診療材料費の構成を見てみると保険償還材料が68%大きな割合を占めていることが分かった。診療材料の最適化に踏み切る為には、保険償還材料領域まで踏み込む必要があり、その為には、いくつかの問題点を解決する必要があった。

診療材料費約23億



医師の協力が必要

特定診療科や、医師が使用する製品が多く、専門性が高い製品が多い傾向にある。

各部署間の協力が必要

汎用的な製品が多く、広範囲の部署にて使用される製品が多い傾向にある。

診療材料費に着手し成果を上げる為には、約68%を占める保険償還材料における最適化を実現する必要があり、**専門領域まで踏み込める体制作りが必要である。**